

生活体験

第8回

10日間

明るく力強く生きる人々との交流

カンボジア平和学習 & 高床式ホームステイ アンコールワット遺跡群



プログラム参加費

208,000円

旅行代金

11歳以下 120,000円

12歳以上 160,000円

(帰国日年齢)

期間

平成29年12月24日(日)

～平成30年1月2日(火)

* 出発前日が事前研修会です。

小学校4年生～高校3年生

15名(最少催行5名)

対象・定員

研修地

プノンペン・シムリアッ

プ・コンポンチャム

協力

トロピアンコ村

利用航空会社

全日本空輸(ANA)

カンボジア・アンコール航空(国内線)

*プログラム参加費・旅行代金の詳細は『事業概要』をご参照下さい。

現地情報

- ◆気候 乾期で過ごしやすい季節です
- ◆気温 最高気温32℃ 最低気温23℃(12月)
- ◆時差 日本より2時間遅れています
- ◆通貨 カンボジアリエル
- ◆概要 様々な歴史を乗り越え力強く生きる村人や子供たちとの交流、平和学習を通して、カンボジアの過去と未来を学びます

特色

- ◆農村でのホームステイは、原則1家庭2名(全体人数が奇数のグループは1家庭3名の家庭もあります)
- ◆世界遺産アンコールワット遺跡群を見学
- ◆ポルポト政権の負の遺産『キリングフィールド』や『ツールスレン』で平和学習
- ◆CMAC(地雷不発弾処理政府機関)訪問と平和学習
- ◆通年を通した交流開始から17年目になります

プログラム

12/23(祝)	夕方	事前研修会
12/24(日)	午前	成田空港発
	夕方	プノンペン空港着(ホテル泊)
12/25(月)	終日	プノンペン市内見学(ホテル泊)
		キリングフィールド・ツールスレン・王宮見学
12/26(火)	午前	小学校訪問
	午後	孤児院訪問
	夕方	日本語学校訪問(ホテル泊)
12/27(水)	午前	CMAC地雷不発弾処理博物館訪問
	午後	トロピアンコ村着(ホームステイ)
12/28(木)	終日	小学校訪問(ホームステイ)
12/29(金)	終日	ホストファミリーと過ごす(ホームステイ)
12/30(土)	午前	日本式カレーパーティー
	午後	バスでシムリアアップ(ホテル泊)
12/31(日)	終日	アンコールワット遺跡群見学(ホテル泊)
1/1(月)	日中	トンレサップ湖上生活者視察
	夜	シムリアアップ空港発(プノンペン乗換)
1/2(火)	朝	成田空港着、通関後解散

*天候によりスケジュールが変更になる可能性もあります。



体験談

鹿兒島県 高1 女子

日本にいると分からない。ついつい、平和だと勘違いしてしまう。本当の貧困、本当の問題。私はなんて無知なのだろうと思い知らされた。カンボジアに行って一番衝撃的だった、あのポルポトの歴史。とても簡単に受け止められるものでも、信じられるものでもなかった。私たちは学校で世界の歴史の何を学んでいるのだろうか。ただ、年号を覚えて、賞賛されるべき素晴らしい人間の進化を知り、時に悲しい歴史の名前だけをしり、テストでいい点数をとっては世界史が得意なのだと言っていた。でも、そのどこが得意で、物知りなのか。ただ、記憶しているだけ。得意なのは、知っているのは年号や、進化の後の人間が見つけたとてもアバウトで、容易で、なんのメッセージ性もない、出来事の名前だけ。実際にその時代の人間がどれだけの苦勞をしたのか、どんな犠牲を出したのかなんて、知ろうとしなかった。だからこそ、現地ガイドの話をもメモして、真剣にきいて、実物に触れたこの経験は相当衝撃的で、だけど、とても大事な経験となった。ツールスレン、キリングフィールドに行ったその日は色々考えることがあって、なかなか寝付けなかった。もし、私がカンボジアに来てなかったらきっと、一生知ることのない真実だったろう。10日間の中で習ったことはまだまだたくさん数え切れないほどある。高床式での暮らしでは、日本の生活基準の高さと、独特の綺麗へと意識。汚いとは、不潔とはなんだろう。日本の生活が豊かだなんて、何を見て私は思っていたのだろうか。本当の暮らしの豊かさと、満ち足りた気持ちが味わえた。そしてカンボジア、いや、東南アジアの眠れる力。発展途上国だからこそその不安定な政治やルールがあり、怖い思いをすることもあがる、ひとりひとりが生活の中で、自分の身は自分で守る、自然と共存する、立ち向かう勇気があり、自立していた。私たち日本人は整った環境の中で籠の中の鳥のように縛られ、守られた中で甘えていたかもしれない。不安定な世界で一生懸命生きる国民の力と、成長し続ける国の力、吸収力、学ぶ力に圧倒された。発展途上国と人々は呼ぶが、むしろ人間的な自立力、学習能力では私たちの方が発展途上なのかもしれない。私も、東南アジアもまだまだ成長し続ける。南国の暑さと、力に背中を押された10日間だった。